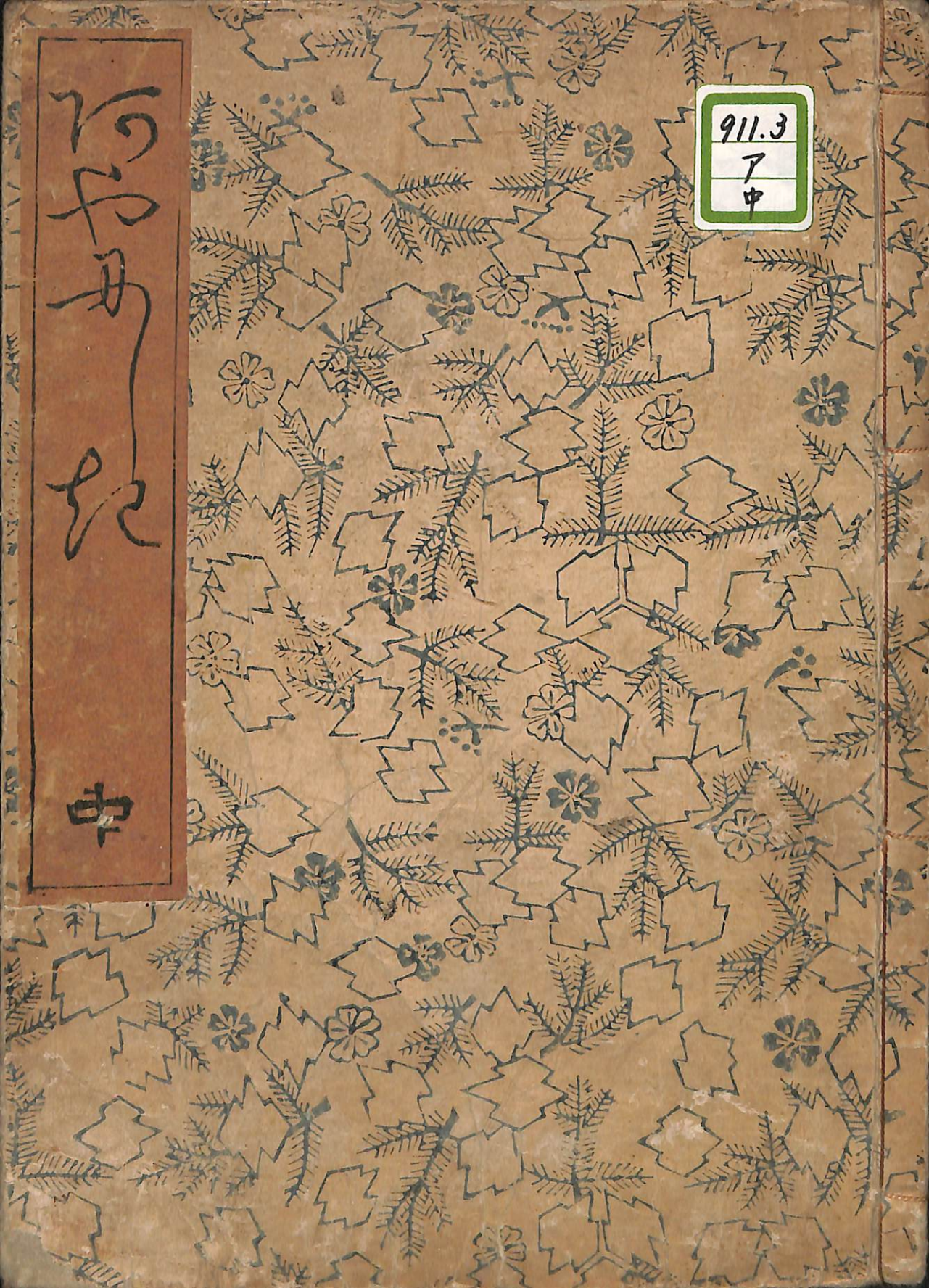


911.3
7
中

阿比丹紀

中



綾錦卷之中

沾涼絹



此乃一字在露言此字上

色在也此一字在露言此字上 露沾

有化今汝之化凉上 百福壽序略前

此一字廣之化凉上 全

賜沾字時

十分之化凉上 長流波 沾涼

露沾一字在露言

形石于固也一字在露言 露沾

有月此一字在露言

世之露沾此字上 全

○江都當時宗匠

次第混雜

凡風く清へ虎も柳の如
 天津橋時乃寫りて多母大工
 礼とてい鬼子降る天乃堂地
 尺の花にさし海の日なり月今有
 一節の滝乃さうとやむ矢の花
 早乙女と活きと寝るは死ぬるを
 花も穂も万葉よりと東方通
 幸崎の松をあつむよ天の川
 梅くくやのまきと志のぬ井乃煙
 を夢やや夢やとてのまき上

千翁
 周竹
 沾洲
 山夕
 批翁
 一漁
 倫里
 當国
 湖十
 吏登

鯨は目不便に尺中る月之如
 ともあふ一の言原披せ存此月
 凡能此舌歩を待あつはる素
 初雪や言の細たよまきいとの
 月又聖の物とやめてまきとの
 ちの雷や作聖二不同子受え
 馬の看の側く一口かきつと
 帆柱の一穂はれ一お由乃川
 ふも川に刷毛塗くして紅葉鮎
 水多にささ負なりとて鯉
 葉も海と葱もふまはてさの菊

貞佐
 和推
 不局
 青^前峨
 今更
 水国
 來川
 陰威
 貞山
 超波
 百洲

氣を移し月乃入江乃奇よき

辛粮

象を移し月乃入江乃奇よき

源より子如合如吳服如の信立

と道なる在形子中一に俗人

振業に柳ふ鯨のほく答と

併つてさ省を折いひい中

番通のよくさる家の棟上り

辛粮

又思くいそは是す能治る子

流出申く船のとも金をまじ毛猫

求音

一以百韻 未歌

付書之拾七

廿月長三



墨印

廿五白宛

幸粮 点十六白 内長

可入 点十五白 内長

正勝 点十六白

求音 点十白

寛文頃

松樂軒立志点 九隆

花を色じまや家乃風流の 怒流

節^〇西志のせ 色此 笠松 全久

お^〇う雪お^〇う^〇くお^〇に京も^〇^〇 卜入

よ^〇の^〇多^〇の^〇新^〇の^〇娘^〇の^〇あ^〇の^〇り 由宜

着^〇新^〇の^〇小^〇袖^〇の^〇縁^〇の^〇室^〇の^〇産 春室

河^〇ハ^〇出^〇形^〇の^〇ま^〇の^〇り^〇と^〇の^〇友 重次

外^〇の^〇あ^〇の^〇ま^〇の^〇る^〇者^〇の^〇酒^〇を^〇の^〇 勝平

林^〇の^〇室^〇の^〇中^〇に^〇出^〇る^〇市^〇立 叙情

ハ^〇情^〇の^〇あ^〇の^〇る^〇を^〇て^〇や^〇あ^〇の^〇先^〇の^〇ま^〇の^〇 執筆

親^〇の^〇先^〇の^〇い^〇と^〇子^〇の^〇室^〇の^〇寺 調和

一頃のま^〇の^〇り^〇て^〇未^〇略^〇之

下雲松亭

竹門 長気 此五

三月十日

●聖印



到
玉鏡の石車浪小や表八駒
菊田氏
行尚

自服略

二十七の甲申

行中書司

右中書司

左中書司

右少中書司

朱子

墨印



知
知養や小町うはるる等い鯨

調和門
風堂

自服略之

解
解星平之

素
素意之
除書司

柳
柳葉之

印

訃の滝水々々をのむる鳥 尺草

露言門

此句は巻の終句にして一語言宗匠よく
回しひせしむるもの一尺草老人の物語なり
よみてはるいふてその巻の長点をうつす
乃終句の音あつてわけて平長し

古詩七選

七

あ云

印不見

元祿頃 續二百韻 初調和評 未不角

一選

雨ハ水ヤそ重ハ物中 唐蒙
 六夜ハ推ヨ腸を 斬今當国良種
 津ハ株ハカ大目ハ林子 鄙園ヨシ白鳥
 五林ハ野人ト 傷子 淑望ヨシ浮牛
 長新ハ月子 酒たのまへ 漆栗毛 桃翁ト桃漆
 五意悲ハ猿ハ 移ハ 賊雅 未立志ト立孫
 四芥指ハ 庭ハ 女新ハ 白ト竹
 八心解ハ 出セトト 殿を 刺 子英

四、尚^レ利休、お方を致^レ終^レ 花笠

孫子曾^レより、是^レ乃^レ氣味^ノ 茶色

十一、波の鱗^ヲ、病後を^レ音^ニ 一鶴

四、所^ノの^レ多^ク、神^ノを^レ負^ハ室^ニ 後和

五、去^レ眼^ノ、^レと^レ、^レの^レ字^ハ二^ノ柱^ニ 詠居

長、佳^ク昔^ノの^レ智^ヲを^レ傳^ハ 節士

四、水^ノ樂^ト、^レ名^ヲ有^ル、猶^トも^レ自然^ノ 和英

長、君^ハ乃^レ仁^ニ、^レも^レ万^ノ物^ハ此^レ乃^レ家^ニ 蓬雨

十二、以^テ月^ノの^レ第^七門^ノ、^レ舟^ハ濠^多子^ノ橋^ニ 幽蘭

四、糸^ハ袂^をを^レ謎^ト、^レも^レ密^ヲ流^ル 丈岳

座付 金杯 長雅 旭志

一唯而已^レ、^レと^レ未^レ略



千 一 二

此所有印略

七十九

調和

朱印



今露月十五

識月

志二草に根なる如く豊園野

昭々略々

多岐川

舟



書林

江戸町之丁目
西村源六
江川錦小路之上
京西村市郎右衛門
開版

文刻堂記

于時寛延三年己正月二日

此集、真徳源平の巻をあらわ
し、其の巻に於ては、其の巻の
綴りや、其の巻の綴りや、
其の巻の綴りや、其の巻の綴り
其の巻の綴りや、其の巻の綴り
其の巻の綴りや、其の巻の綴り
其の巻の綴りや、其の巻の綴り

桑、畔、發、句、集、全、二、冊、部
北、梅、市、有、佐、纂
新、花、林、平、砂、輯

書籍
京都 西林市 西門
本邑三丁目

文成堂 印

干報寫致二拜 五月二日
此は...

藤坊林	平沙	禪
方梅市	有奇	纂
築	昇深	集
二册	全	陪

標
草

茶の味を付ける雪の且の如く

茶
標
草

碎中宛 未書

此取点印譜略之

云々

雲々

不見

鳥

冷天凡 撞、以、現、く、を、心、外

脇ヨリ畧

沾涼

南仙

針市

鳥二音

古

ひやふ



朱

戸出—廿九夜子さひ—かん—鳥

今百二十云

周應

字心跡

増安某之復来也

河津十

七十也 周又

子善

飛石乃水口たまたまの石千楓



十乙張中

此間有印略

長一五

花月



標

山吹の流〜黄がら目好印 正共

脇ヨリ略

残墨八句

花斗心

花斗心

山夕

・楯口氏
前山夕



銀

昼形平上二所白ハ音

北村

東巴

照ヨリ畧

急見九十一

銀長一

新長一

長一

鳥也



一

六

山月

九く増るる夢里と朝乃雪

調柯



沙考九句

印

長五

中



朱
歩よる浪
新酒の安房上総
蓮之
渡水

浪ハ存
形ハ朱ハ
長ハ三圓ハ

流生


倉物

物ヤある極
刻
心

川勝

丈岳



之
刻

心
存

一
存



對揚

真乃間の縁佛を及る要ふ外

宮川

千風

新見上

平字

長生寺の所

年し七四

个成

泰復

金魚袋

所祖の松を鉢——く物——

鈴木

東隣

眼よる玉階

石鉢

は唱

有美印

古白堂

秋翁

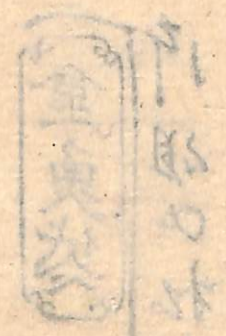
石の意の意の

石の意の意の

志之... 朱
雪朝

公... 一
輝... 二
... 五
... 六

為



珠
今魚路下云
玉宇



... 一
... 二
... 三
... 七

志



三我目

下朱

うづきや海ありまきくい富士の裾 未乙

宇田川

百千鳥

雪々五 餘等級

以貌

佳風



此集以

凡乃夢又ノ奈須ハ与市モ云々 千翁

人比^{カタコツ}云和哥に所^{カタク}通^{カタク}神と云々を基乃
系^{カタク}強^{カタク}なりと

道ノ所ハありの美のむ人乃花 沾涼

和歌無師匠唯以^{カタク}舊哥^{カタク}為師^{カタク}深心^{カタク}古風^{カタク}習詞^{カタク}
於先達^{カタク}下略

注云 和哥ハ自然の發得の境界なむそ人の教より云々 中略
習詞於先達とあるハこの和ノ自然相違あり
ゆり去道とも和を先達ノ習の介ハ所ありと
云々しと云々

○當時宗匠ハ活削一兩卷札下にありナ
此ちりりりり終り教

龜背

郭公法... 和の中禅寺

巾車

不見

右九丁線

一美丁也

不... 下耳

信橋



大符の精をみくや... 朱

五百武

浦 善 松

朱 上

四 長 一



威情ハ
朱
秋小ハカ
おれ揚ハ
布仙



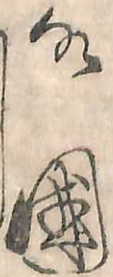
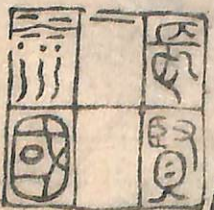
信
方
一
唐
子
年
中
身
方



松
朱
子
清
琴
も
朱
々
至
庭
乃
雪
梅
五

身
乃
至
庭
乃
雪

七
五
々
の



野
朱
 繪
 國色
 倫仙

火
 中
 印
 替
 魚



當時宗匠点印譜

次第不同

調和印

以靜為用十五 兩朱七 長三

獅子五 紅絲石十 朱五 九二 堀尾和推

玉姿十八 回文錦字詩十五 新月色七 乘岡貞佐

花影上欄干十 回雪五 長三

筑波山三 珥比磨利十五 異玖用加十 批井少

祢菟流七 朱五 長三

彈夜月十五 天壽十八 金氣艱精十 丹頂五 鶴海一漁

立夏清風至十五 君子鳥七 長三

金精三 映朱十八 銀輪影斜十 朱五 桐洲貞山

玉夫弄桂花十五 廣寒月七 長三

五更二十 四更十五 二更七

三更十 一更五 長三 内田沾山

神物護持頌丹鳳十五畫中詩十風檣七 長三 稻川當国

簷花雨平 宗玉韻三 玉鵬八 孔彰五

無上宝準 天心月廿三 寶玉二十 千珠十七 神妙十五
秀逸十三 無極十三 大極十一 銀漢十九 曜九九 蒼溟八 立羽七 翁
龜脊七 俊六六 豪五五 英四四 朱三三 長二二

羅浮夢十八 東閣詩情十 朱五 貴志活洲

月黄昏十五 江南梅七 長三

水調歌十八 春江花月夜十五 清平調詞十 江川百洲

長相思七 朱五 長三

神慮感平 一種風流推国色十六 色典香齋十三 有五声十 瀨尾拙翁

頌滿耳十八 崑崙玉餘十五 乘水金十 雲津水因

千載觀七 朱五 長三

花重錦管城 揚彩二十 三光十五 車輪十五 黃禽十 三田白峰

錦管城 曲浪八 行帆七 朱五 長三

無盡宝準 天高月二十 化玉十七 神龍西 秀光十三 立羽不扁

華德十二 有隣土 文飛十 螢雪九 枕書八

鷄齒七 順六 樂五 好四 朱三 長二

其角印 一日長安花十 洞庭月七 曾湖十

半面美人 越雪五 長三 九二

天地陽花平 清奇加五字 壽陽公至十 笠家逸志

笑桃李七 朱五 長三

翰林賜錦袍廿五 玉堂雲霧窓平 金榜題石十五 帶金盤

一枝桂十 黃甲七 朱五 長三

宝鼎平 龍平 鳳平 秘曲平 簫廿五 磬平 立來川

三籟十五 呂律十三 宮九 角七 羽五 長三

屈敬十八

金銀

十五 四字十

三字七 朱五 長三

長坂成屋

嵐雪印

墜玉簪

百花嬌語十 弄晚涼七 探菖五 長三

探荷

櫻井吏登

醉中翫

夜梅三十

睡海棠二十 睡起美人十 国色五

菊岡沾涼

挂

未央柳十五 美孌人七 朱四 長三

仰高鑽堅 准勺慎其獨 平明德十七 志學十五 景星出

慶雲十三 道極十二 峻極十一 至善十 齊家九 脩身八 立羽壽角

九竜館十八

壁玉簫十五 洞裏神仙十

志村常仙

花生二十

泥書十八 九字十五 四字十

打田今吏

破中玉八 夜光六 朱五 長三

古音娥印

薰風自南來十五 海棠七

前田音娥

金声十八

高山流水十 朱五 長三

二妙字

万斛香十五 月明美人 朱五

岩本乾什

花千天下春十

雪玉條七 長三

沉香亭

月雪十五 三字 月七 長三

曾永機

五字順句

五字花十二 字雪五 九二

彭澤字

孤芳五 金玉錢五

今村陰威

寒英十

晚節七 獨秀五 長三

隨唐十八

花街簫鼓月十五 露往霜來十

石川壺月

支機石七

朱五 長三

蘭奢待十八

千鳥十五 蓬山一樓雲十二

千足尾谷

金玉翠珠十

鵬鴟班七 朱五 長三

鳳銜十八 德高比君子十五 朱五 長三 潜水起波
かろ点 石菴山暉十 長外英七

季吟

法印

吟市

尊海和尚

吟市

御直參隱居

門人現

又津見氏

一僕とほくくあはく花えうね
 家つとや敷を新まきると様
 一は耶の本の榮そく福と歎道
古吟市 今吟市

其角

東坡登

堤亭

下邑氏

苔翁

右壽衣氏 堤亭奇 点印附属

ワの雪とおもふをかき一笠の上
 うらうらの尻の葉ひま一林の末
 人の梅おひさくく松のくの
其角 堤亭 苔翁

人日

糟小本と遠里小登乃菴うね

露沾

早春

まゝ魚や産院淋しき東乃色
 唯て今朝の残のなあり宵乃雪

扇風 溶く

歳始

越前丹生郡西甲中領

初葉松年乃芽や春出海

沾凉門北仙翁 南花

赤椀の白ひや春のけいふなを

梁氏 貞桃

赤セ筆の連者をそりよ葉摘

沾凉門 沾橘

すゝ富士の赤ひさりとととと

日門 魚路

初寅

井當をそくくくくくくくく

秦姓嫡 不水

梅 いまや一さのり

梅活きて伴え流るる葉揚非情し
門番の海月いなりた梅の昼
うきまや花の鏡の志のく人ぬ
正氣教音して又身んじぬの恥
娘の心ほのよの国や意は梅
吹通も梅や梅と中押

初午

午そとふさるるふさるる梅前
ふさるるや初午日ぬ花波ふ
ふさるるや初午日ぬ花波ふ
ふさるるや初午日ぬ花波ふ
ふさるるや初午日ぬ花波ふ

芭蕉門

下宅

雪朝

沾涼

強角

有林

沾賀

一漁門

梅宇

沾涼門

五百武

布仙

露人

上巳

桃啖に鱈子うひて御瀦水
大川の流いしあり紙雛
祓ふに神代のまの雛外
沙千う如女の物ぬ白一束
治千外せめても雲の墓香
治千う子果身投し下まて
歩握のよこまなうまぬ治千外
まじりく一命を弁たりも桃の色
龍まぬ大洋に至り治千外
まの治品川ちり安房上総
時津風加えて春の解びる

太平

紗裏

一漁門

賀朝

貞佐門

標律

交月人

有佐

調山

快山

服部氏

臣女

沾涼

魚路

紀逸

柳

芭蕉門

おの道さを掃除さる柳外
知盛も出へき浪や凡柳
青柳の梢を漕かる夜の袖
去年の荷をおりて動く柳外
風て胡少とこる廣き柳

花

庭探と菊書と白毒此心と
水柳の裏干す日如さう外
垣百尺の娘女の素顔や胡さう
でかたしと袖もとくど花の砂
花見のち橋を枕の甲斐敷

芭蕉門

下宅
雪朝
沾涼門
紀州若山
一
倫仙

蓮之

未石
青里
好夕
夕佳

搦嘆を矢張して詠めう如
千金の虫限子ちう一花の書
抱一今世主のさう一花の書
汲花の河原らの月を水車
沙瀬気ゆきて舞遊橋物
今月を色きて書さう外
乞ハ退き目の橋を屋台はう外
見付く通道とてかき一花の雲
花の道若聖子笑う人の者
大佛のたりの孝向山作久
知やらん高子下谷の如色

名上野乃水

和歌才門
立鴨
一七津 洪水堂
節音
水程 聖孫亭
落霞
千翁門
分角
李條
其角門
一風
英松
改壺竜
樓川
沾涼門
千洗
猪釘
垂棘
扇的

門を八七合もつる空々
子平自仁王を中宮と云ふ

清く草紙

卜宅
梅五

中一するの死の表はさう外
山門と死子いさるや大師

魚路
九百武

白魚

志し魚や一院子諸聖の青原西
志しをいふ子又申白八王子
星を焚く志し魚船中一洗く録

雪朝
千洗
一店

生植

春柳や乞い誰部風古衣折
氷柱や風も惜す春の心

琴月
梅宇

ひし雨子文紗を絞るけりけり
英人子ハカ痛き一独活の内
安養聖や去るに何と一強心信
今^{腰帶}はりの臂と見せしる春の芽外

賀朝
安祖
水戸
沾
秦姓
丈岳

あふのあ乃死

菜の花やれ細い梅で初田屋出
勢多の東をさるは菜花の梅
菜のともや余りよ離れ井の地埋
菜の花子照る帯はる三輪う橋

沾徳門
沾
東
梅
伊賀菊母氏
記
之

氣形

あ申じともあつて田の夕日外
うらふすや人の泉節鞍馬胤

笠家素竹軒
逸志
調柯

井戸松乃心之...
 寒心之...
 凉心之...
 秋扇之...
 霜杯之...
 何事之...

露庭
 和列郡山
 孤中亭
 其悠
 快山
 濠渡
 希聽

南世之...

山... 浪... 下...

福科氏
 菊千

雜 春 題 卷 之 一

田... 氣... 自... 只... 今... 之... 之...
 子... 青... 有... 花... 中... 如... 如... 陳... 東...
 始... 心... 之... 空... 好... 一... 有... 為... 如...

未石
 周胶
 只口

長... 家... 之... 壯... 丹... 心... 之... 為... 豐... 何... 如...
 必... 以... 心... 之... 為... 子... 招...
 之... 友... 之... 無... 之... 相... 之... 芥... 之...
 大... 心... 之... 為... 丹... 心... 之... 瓢...
 之... 如... 中... 之... 自... 如... 如... 戶...

賀朝
 信州松平
 三省
 之報云
 水音
 御柳

城前本條

心... 人... 之... 待... 外... 之... 魚... 十... 里...

和擊門田屏氏
 立儿

下臨宮法樂 武昌左郡 蕨宿連

象... 鏡... 子... 柳... 柳... 柳... 柳... 之... 名...
 神... 植... 子... 五... 教... 喫... 一... 心... 之... 輪...
 大... 心... 之... 味... 之... 者... 物... 後... 乃... 板...
 以... 能... 名... 之... 而... 大... 心... 之... 柳...

挑舟
 万里
 李冠
 李角

貞徳門 松本軒門
 ●●正勝 宮邊氏 正徳 長子 正興 長子 正全 長子

正勝
 正徳
 正興
 正全

正徳
 正興
 正全

西武 山本氏 卜人 雪 在多村 郭月 長子 東巴 長子

西武
 卜人
 雪
 郭月
 東巴

詩仙 賀朝

名月や 空如く 露如く 眞は浪

蜀江錦をくくじ 鶏 既

感宮ハ 煉情をくくじ 浪と 鳴りて

駕籠子よききもる 福人 此後

け風小わくおし 一八八 松のきき

芝生一 新畑をくくじ 里 石中

えくきき 水晶輪の化け 仕業

やどの 途 奇の心 笠 恙也

去海とよ一 城 築く ころ 心 念

格気の味 鳴り かし 車 押え

今一悪の彼と夏をこ
さつとも月一やの蟻とこ出
混沌と逆群一入川口屋
布袋の沙汰する産土神
相物のきよいあやごそかられ屋
瓦礫の城らにるは家
良ぬの素味を軍や家業
〜〜〜とて蔵王堂
は華一經吹切らる余
あゝぬるはさるも鯛
口統子の辛味とほはあが

小町の果を十月の菊
世のとをぬるを〜〜〜の若
井〜〜〜の縄三と云
番所ハ坤皆新よがらる
酒呑童子の並ふ大部
義盛の荷前て一家の定差
澄〜〜〜をもを代
姐板に万敷澄る十三
氣子入座江実も花ハ蓮
此の舌つさす〜〜〜の
葉茶真一〜〜〜の衆

寛永の繪品の跡の歴々
 芝居を足利と申入ぬ金
 祀なきや人の草冠をよむ祀
 いふぬ仲るるも業を止す

其角

杉尋

久米田氏 押塘

婿

賀朝

同苗

藤堂表ノ醫

享保十四正月年

同家醫

沾涼三物組

沾涼三物組

長閑さの海生ハ海の表づく
 古入 杉尋
 一ふ二帝の才のせがし
 時多 賀朝
 首の赤もくくはけの黒さけ
 不角門 吉田氏 賀角

未得老人ハ祖母の意又くり沾涼今
 其系を流しありありの國々末の一字
 をとりて淋衣を流すのこ

邑里堂

未石

其流を流して知る新樹ノ如
 汗の汗とよむ藍の端ぬき
 麻ねし此床くふをりきて来て
 一そぐも人もとよむハカク
 一際をとりて月乃京男
 ありぬき芝居 雀 二夕役
 鶏取の来いありぬき 定濟子
 女房乃 瘡 精 共 を入せ
 一かい 鱈もあきふもを替り
 黄ひくさ女子 着ハやゆき

言と目かて知、くくひ解
はしらの紙の先達尺重ケ
報也子抱懐た報子巴月の松
片を烟のきく幾年の心舞
白髪如き老い、くくくくく
くくく子折、くくくくく
くくくく、冷たをくくく、
鬼のくくくをび、くくく
浪の極のくも、くくく、
時斗のきく、くくく、
くくく、拍子のく、
くくく、のくくく、
くくく、のくくく、

淡茶屋のを、大桂馬
干浮を見、水のど、
白心を解、くくく、
くくく、入のく、
深文の殊、極のく、
くくく、のく、
風子の素、面のく、
大乃のく、
茶本のく、
鞠のあ、
くくく、
くくく、

人唐のそと沙覽一勸学所
あつてぞつて三月の湯気

貞徳門
●●●●●
未得 可曉 宇田川 可信 日苗 現 未石 日苗 邑里堂

子 未珠

式及の事いそまに夕夕に下坂市之出
下坂市之出に下坂市之出
下坂市之出に下坂市之出

あまのり一冊をら下坂の門の綴り一報治の貞徳
可曉

垣よりまのぬのさう一を

垣裁てまのさう一をさう一をさう一をさう一を
可作

あまのり一冊をら下坂の門の綴り一報治の貞徳

朝報を授けたりおのり湯合の事いそまに夕夕に下坂市之出
未石

朝報を授けたりおのり湯合の事いそまに夕夕に下坂市之出
未石

郭公

初夢のり大加城ゆり一時多 吟市

中々まの蛙千又ありなり 當国

四星を吾の初報治一の時多 賀朝

雲に消へ雲ありそ和ほとまの 乙風

中々まの蛙千又ありなり 鶴史

あまのり一冊をら下坂の門の綴り一報治の貞徳 李條

傳り一人間よりありけりまの 古竹

髪結子服をまのまの本とけり 有佐

ほろこまの扱うを枕う老角力 夕佳

そ思工のぬれ波を五人蜀狐 扇的

さうりつと傳郭より乳房うぬ

〇〇〇

傘さす如く一樹の陰に宿る

太平 竹裏

素性ハ通照乃予るるを

くふさの通照素性也

沾涼

玄石十日醉

秦姓

文岳

おれ我房のくまのくまの子部

市中郭云

松濤舟

魚路

圃人やうく時多二重店

沾涼門

涼之

初形ハ多の趣り候くま

未立志

如夕

松さく茶はも法あり時多

日門

愚弊

勢子本く聞せん 望帝

日門

風志

雨をや冬へ申す 郭云

風女翁

杏白

曉を滝子さくく世保く時多

杜宇鳥 又 おれ 冥途の言さく

不扁

たぐく戸の窓木の文り物くま

梅五

道はより茨道へ居座より杜宇

布仙

藪越一の海の時さく物くま

倫仙

いさく水ありし時多

伊賀上、宗匠

原松

鱧

今海より北沼浪やまの鱧

五百武

通一矢のかみのまじつり鱧

沾涼門

涼宇

藍花色い赤く物さくをけ

布仙

すい浪子髪をぬきやまの鱧

周皎

鱧如沖津時多 明さく

露角

沾鱗

納屋の戸のありき年一物鱧

古竹

海を出て海よりさきへ
宇治川の伝へは梳系さるる

螢

色買ふ八八百屋々紫菀の管外
身あうりの吹売さうりほるる外
ましかもふ尼の糸麻の管うり
秋の暮なきく深束のほるる外

蝉

帆柱の蝉の音きき一尾尾千里
降合し一糠もふさひや蝉の昼
焼るるさるの本陰や蝉乃野

沾涼門
沾涼風

露門
沾涼英岳

志村氏
沾涼快山

芥田

水戸佐
沾涼英朝
沾涼鳞

端午

とゆくの珠管あうり拍係
曼珠丹後の母此後あり

梅宇
沾涼

夏日

印肉のさきおん月よの異子外
海きんて破りさるなきあつ外
風風て風呂を吹するあつ外
あつさる牛のつらぬ切通し
花りあけ斎のまや油照り
しんゆりとは丘尼のあま異子外
一子月のあまの氣のまうりうり
一柄抄の根をたぐあつ外

琴月

沾涼門
沾涼蝶

不局門
沾涼琳角

桃翁門
沾涼中車

沾涼

照仙

芦葉齋
沾涼風

菊千

蓮

かとうまの何れも縁やふこの蓮
咲を及く根の葉もさき蓮の節
風さ先て星の居りの道う如
十うとくしおれし平く蓮の指
欠こむる蓮の巻葉よ森光外

東巴
鶴史
好夕
周午
而
波宵堂

生植

五文字のさう女子落つる花
華や在るさう秘する牛の鼻
日く乃作ゆりや時中葉
いふらん牡丹の量子柳子あは
膏の雨ぬ六つ七つ花あや先

一漁
調柯
推
梅至
市紅
菟堂

昼顔や流る坂のまれば何ら
那百合の目まをいとわ懐子
去年スーノる雨のあま葉ふ
舞余常道て流びとるり花葉
咲換る人も人しおらるる
水とくの水の水すー胡背田

其角門
楚殊
調山
沾涼
丈岳
志諷
未立志門

命のそゆや掃きよけよの春
知乃花や真田う丸の胡海花
初風や櫻いさきて西東
雑髪のみ
備てな一信て程き一甚あふ海

石所
安祖
露喬
沾攝
甲刈宗匠
萬丁

雜夏

あきりく遠き子とて夜く
はきれやゆき事とて夜きのみ
記し合隣り遠く丹波故郷

東潮門 宗瑞
五山
東隣

莊子に胡蝶のまわり

露門 皓魄堂

硝子の魚と化しり蚊の音

露門 露庭

ゆきと世も生貝の如加減

小島氏 雨桐

ゆきと世も生貝の如加減

千翁門 有月堂

志小橋をゆきと止る鶴の羽

隣角

追憶と雉子のたぐを坊地

月 枝月堂

景清の蝶とて珠の響るる

月 陽月堂

其影子海士の借てつ田子の不二

月 江月堂

ぬきとゆきと世も生貝の如加減

浮月

五月や二十四孝て尼と男

水戸 相隈 沾隣

功徳池乃志く後を字と法名外

日取 沾瑤

這とるるといふあめく星浪うぬふ

宇於宮 青嵐 瞻

果報子の災人のあふ餅の響

和歌才門 幾水

天女のちり何しよりやととるん

紫筍

そとくあめと冠をきり田植在

未石

柴の戸ハあふふととる田植在

梅立

あふ限の彩色て来田ととる

布仙

そとく後のととる味あり夏なる夜

服部氏女 五石武

夏のあやふととるにかりくはの巻

原之

誰かをととるもまきるまきの風

甲州産 若葉吹

出干や風風 鶴橋のあめとる

乙風

神の孫止まふよのえ 千翁

神祇 鯛のつらつら津の留之居の狭箱
叙教 一文く難陀抜泡を下物

玉一こよふてさう

戀 業平も大豆を舞さうのもか

無常 かほつた抱のもあまの死天登

迷懐 女房にも後を尺せと妻の尺の

夕乃遊 四季 梓沢巴粟

松 解く糸の目流しや松の雪

榊 月ささや鞠をともと其柳

榊 葉の秋を散るも桜の暮さうの

楓 水さや雷のあゝるを 楓浮

題 冬川 奇仙

いかにいぬ舟乃情さう冬川 五百武

さびさびさ水舟の雪降るさ 沾涼

尺通の鐘も尾上とも明て 倫仙

茶乃柳 梅五

當年も此辻番の葉鶏既 五百武

詩も作れし 龍乃素円 倫仙

後日子はう孫て大エのか一馬帽子 々

從羅川へ出さるる身ハ 五百武

紅猪口子一國を海と指の踏 々

同屋ハ長者五尺まぬ板 々

湯げらら七考よあふいそ六部
 いー作里の葉よかかこ併
 御油赤坂因崎池裡餅の海言
 龍譚を止る 知毛の帳
 雪とたる花の雪落乃 匂よたり
 うさをはさのふしかりよ去う如
 月お海乃芥生のの里もさやう懸
 袖にあやうー付いのぐく 留
 田紫のたぎく集淡みらん
 下白を杉ー中へ一目
 白よ成松の輪切りの座香の
 時代さぬーの暇の片汗

五石武
 備仙
 五石武
 備仙
 五石武
 備仙
 五石武
 備仙
 五石武
 備仙
 五石武
 備仙

池ッよみいかく糸素麵がろ里そろ
 三舞作茂菴さーが葉つ
 年慶の孝里小聖乃油貫
 不破といの瀬とと事たふの傘
 雲吹い梶原絶縁兎破乃香
 下夕へらりりとぶあーんの香
 鳥衣矢切りよ月のち花んと葉
 三日り着の嫁乃さうの沙
 能国の孕句おらよけ月ハ
 修治の晴きて盆よ版粒
 田跡いあくらふのよむあそあり
 苔もそぬー 積一堂 形

五石武
 備仙
 五石武
 備仙
 五石武
 備仙
 五石武
 備仙
 五石武
 備仙
 五石武
 備仙

酒志海もあつた男の花の文
長乃白ひり今卯の隣
偏仙
換五

師不知
得入
小沢氏 季吟門
長子同苗 現
始孤吟下云
尺
長子同苗

昔柳のぼつとりとをふか
秋乃雲富土をいんくまな
一粟一之志さり 萬浦の如
今ト尺

芭蕉翁のあつた路の
古ト尺

梅留袖

伴勢小所 式アも梅の中へ
沾山氏 沾師

沾源万句享保正丁未三月十七日

湯宿天満宮社社にのり

礼物不受
座料不受

賀

とくくや北中乃下此
魚路

着咲や伸へて子
五百武

山西子乃万句
五

花子乃今羊万葉
湖十

蔓長一乃着浪神乃池
佳風

花子乃苗此千も
潭北

香久心や神代の
露牛

西光清さ千園子
吏登

連翹ハされ下も坊主中百う如

一漁

十二座のわきもやむの神も

連歌師
丈裳

毫よりけは藤江乃と如北據

枕翁

笠塚や六のてしうの垂乃雲

當国

松を流中にかひあり花の門

沾山

卦を舞じし藤新敷と何と云

白雲

手抱あり花の下や人北風

百里

世よ鳴きと佛多のまー花の時

雨橋

程かーくまうま北口へと并

節士

園空子こころハありの兼主産

東巴

やうそを不二まうとあつる

露月

花や今不二の襟りと菊草

丈岳

月よりれとあまも子菜北の桂

末石

花いつ一雨満花の時津風

八十店

文鳥の息もさううの日和外

巾車

草の牙の力を欠する入糸

東岡

うらひの雨そよをさるををか

仙杏

是鳥や藤も兼曲の花出り

呉竹

松の根の腰めまわりと如さう

涼之

芳ーさ草にわたりや名のま

倫仙

赤く廣屯智にうまー鶴乃松

紅夕

雲子入るまると並ぬや筑波山

雪朝



苗代に臨み新さるゝあり 費十

波子とれと小舟をひたす 暁漸

水さりや一尺二尺 鶴乃足 出紫

花乃口万白の席をうへ 孤舟

今日の日夜紋のうへ 雑子の身 林潭

未久一縁と初も 蓮の幅 仙魚

かげと筆の玉子の雲 縁 沾友

桂久て菊やま万二千句 柁舟

○當日如席一尺百余人のめく賀白あり

兼白とまきんもくもくもはるる見せしむる十二

おやけさ中巻袖

